

4 地点別の水質汚濁状況

(1) 富士川流域

富士川流域は、長野県との境に位置する国界橋が山梨県の始点となり、釜無川として南下し、韮崎市付近で塩川、黒沢川が、南アルプス市で滝沢川が流れ込み、笛吹川本流が合流し、さらに早川などが合流、富士川として駿河湾に注ぐ流域である。

ア：富士川本流

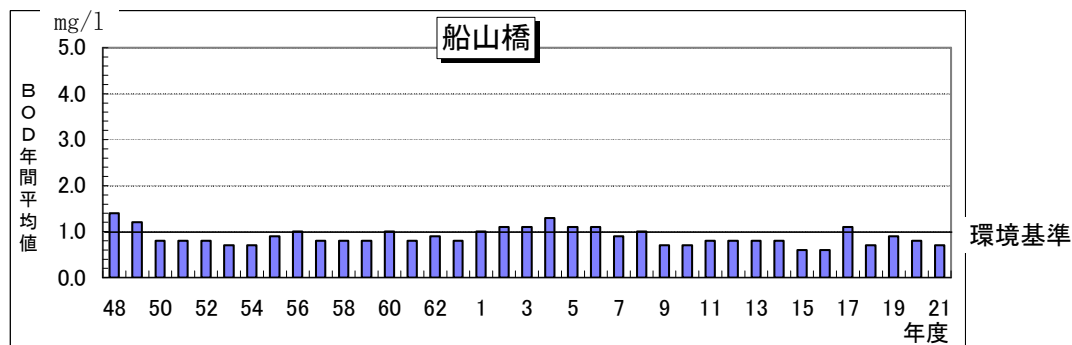
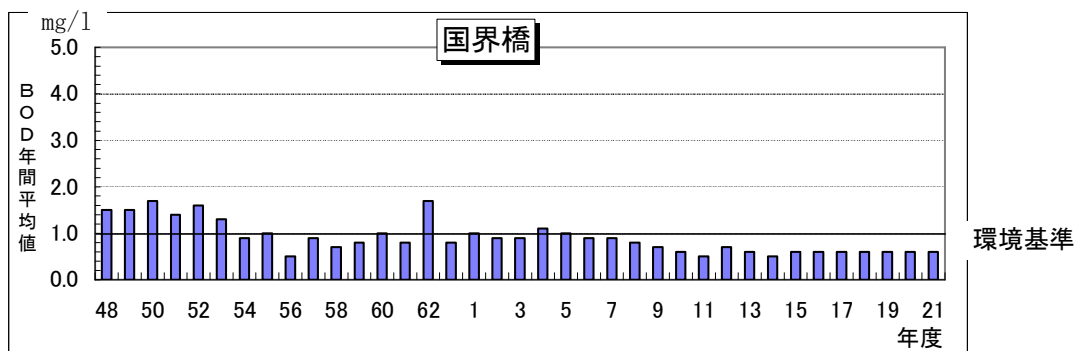
環境基準は、塩川合流点から上流はA A-I類型(BOD1.0mg/l)が当てはめられており、結果は、BOD年間平均値で国界橋0.6mg/l、船山橋0.7mg/lであった。

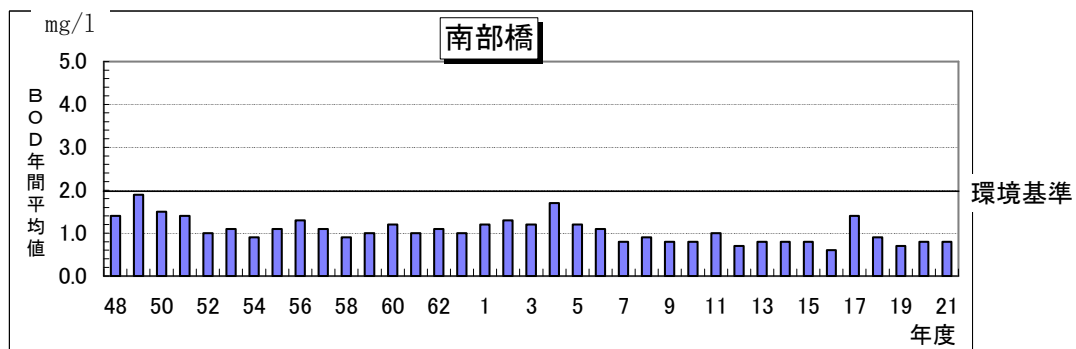
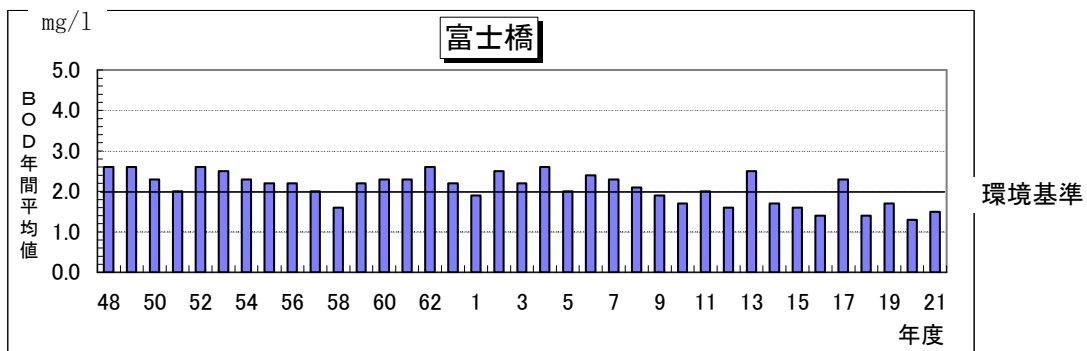
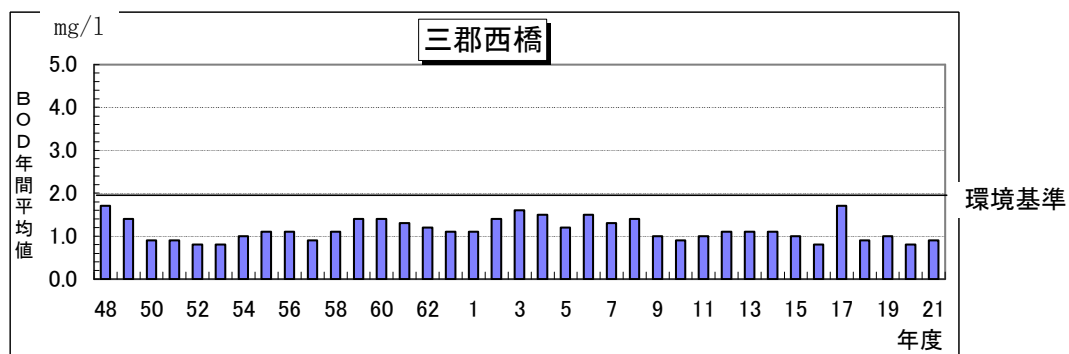
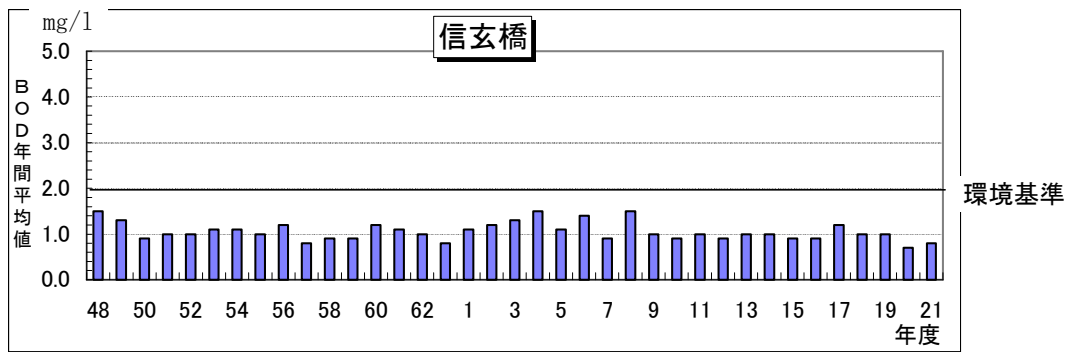
塩川合流点から笛吹川合流点まではA-I類型(BOD 2.0mg/l)が当てはめられており、結果は、BOD年間平均値で信玄橋0.8mg/l、三郡西橋0.9mg/lであった。

笛吹川合流点から身延橋まではA-H類型(BOD 2.0mg/l)が当てはめられており、結果は、BOD年間平均値で富士橋1.5mg/lであった。

身延橋から下流はA-R類型(BOD 2.0mg/l)が当てはめられており、結果は、BOD年間平均値で南部橋0.8mg/lであった。

富士川の水質は概ね良好であり、近年も改善傾向で推移しているものの、甲府盆地内の河川が集まり笛吹川となって富士川へ合流した後の富士橋でBOD年間平均値が最も高くなっている。

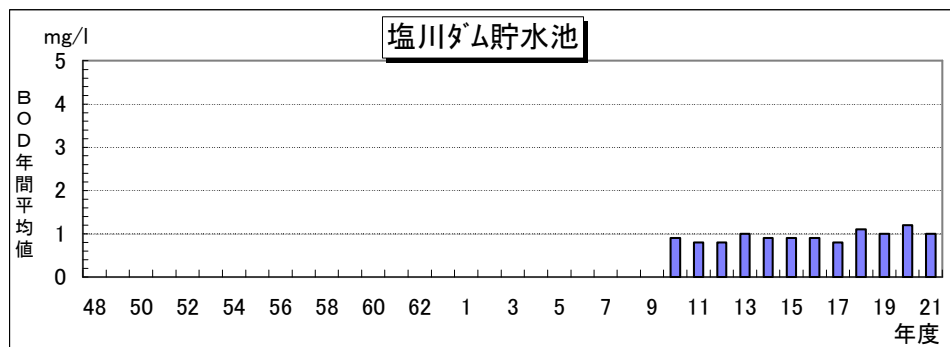
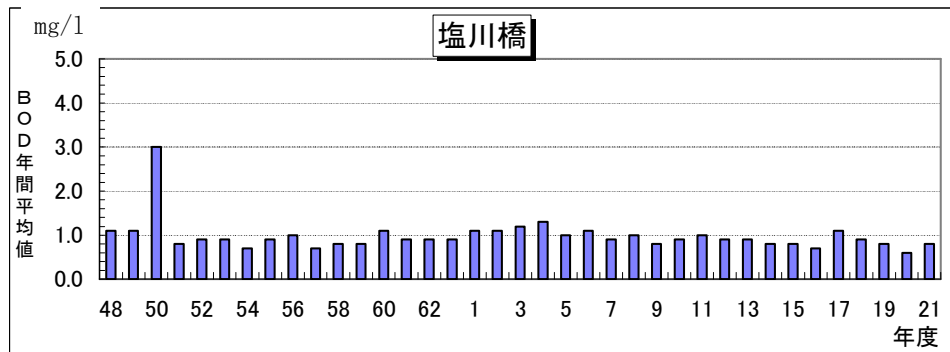
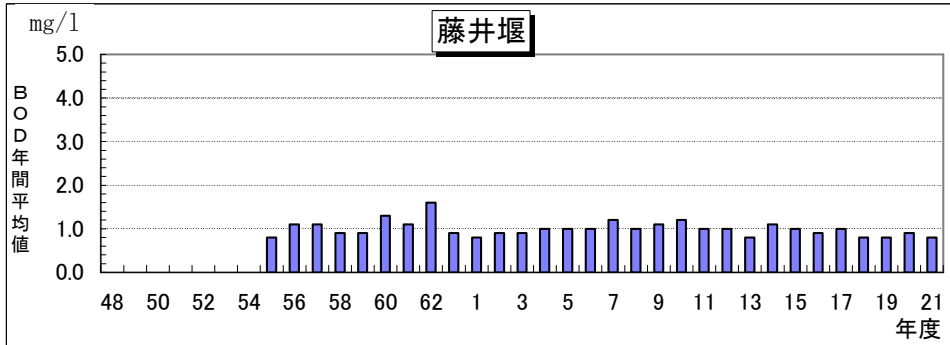




イ：塩川

秩父多摩甲斐国立公園の瑞牆山付近に源を発し、蕨崎市付近で富士川に注ぐ河川であり、結果は、BOD年間平均値で藤井堰0.8mg/l、塩川橋0.8mg/lであった。

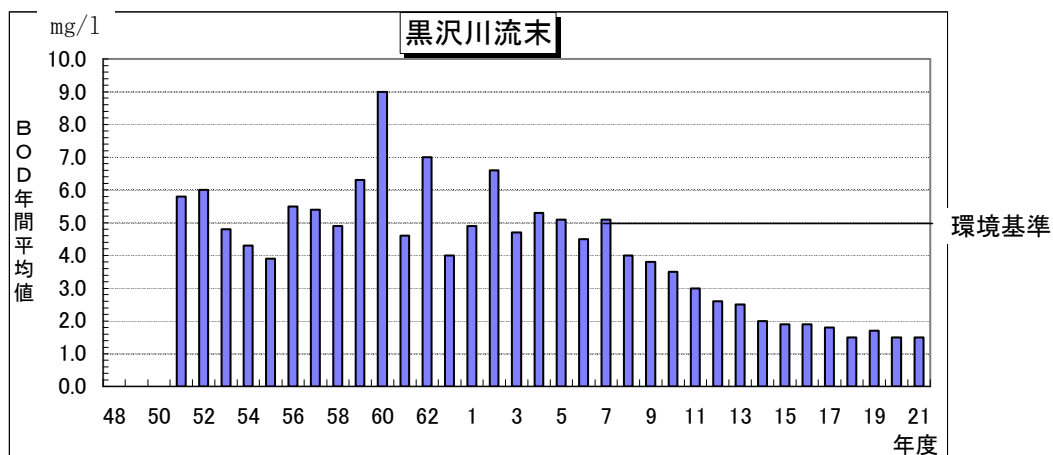
また、平成10年度からは同年供用開始となった上流の塩川ダム貯水池でも測定を開始し、BOD年間平均値で1.0 mg/lであった。



ウ：黒沢川

韮崎市内を東南に流下して塩川に注ぐ都市型河川であり、生活排水の影響を受けやすく、平成7年度から環境基準C－ハ類型（BOD 5.0mg/l）があてはめられている。

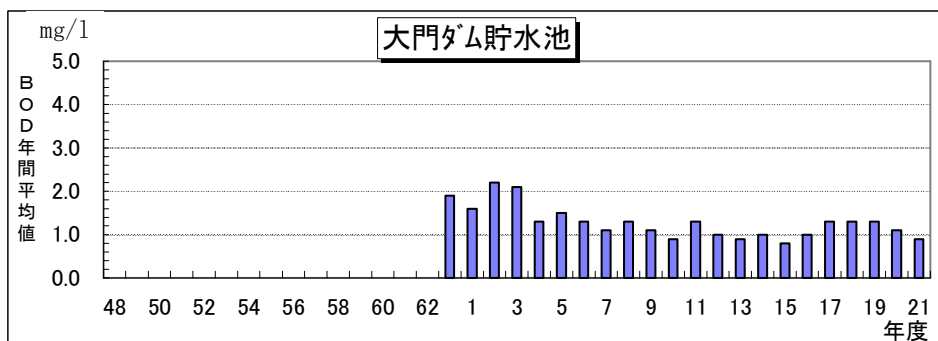
結果は、BOD年間平均値で流末1.5mg/lであり、下水道の普及に伴い、近年水質は大幅に改善している。



エ：大門川

八ヶ岳中信高原国定公園の赤岳に源を発し、須玉川に注ぐ河川であり、大門ダム貯水池で昭和63年度から測定を開始している。

結果は、BOD年間平均値で 0.9 mg/lであり、湛水初期に比べBOD値は低くなり、近年は横這いで推移している。



オ：滝沢川

南アルプス市内を縦断し富士川に流れ込む河川で、平成7年度から、環境基準B-I類型（BOD 3.0mg/l）が当てはめられている。結果は、BOD年間平均値で新大橋（滝沢川流末）2.6mg/lであった。

